



AIR motomoto 企画

# miike echo

— 友定睦個展 —

私は地域のリサーチを通して、その場にある象徴的なものや状態に目を向け、それらをおかしたりずらしたりすることで、その奥にある景色が見通せるようにしたいと考え制作を続けています。2021年、旧三池炭鉱地域を初めて訪れ、数ヶ月間滞在し、象徴的なものの背後にある存在に少し出会えた気がしました。短い滞在期間でしたが、この地に身体を馴染ませ、出会った人や風景から歴史を読み制作をさせていただきました。

今日においてエネルギーと呼ばれるものの恩恵と歪みは、日に日に顕在化し、複雑性がましているのではないのでしょうか。それにともない、かつてエネルギー産業で繁栄を誇ったこの地が、一意的なとらえ方で加速しているのではないかと感じています。

本展では2021年の滞在制作を軸に、万田坑内でインスタレーションを展開します。この地が持つ物語の豊かさを少しでも示せればと思っています。

友定睦



〈miike echo〉 2021

## 友定 睦

TOMOSADA Mutsumi

1989年兵庫県生まれ。

2014年広島市立大学大学院芸術学研究科修了。美術作家、映像作家。

友定の作品は地域のリサーチから展開され、映像や写真、3DCGなどのメディアを扱い、ビデオインスタレーションとして表現活動を行う。近年は、古い文献に記された風景や、地域の片隅に建つ記念碑などの不在性に着目し、様々な記録物の再構成によって失われたイメージの復興と歪みを出させ、現在地を新たな視点で画く方法を模索している。

主な個展に「不在の証明者」(motomoto AIR、熊本、2021)、「離れてみる ナラティブ」(広島芸術センター、広島、2021)「Backlight」(D.A.Aura、韓国・光州、2018)、主なグループ展に「瀬戸内国際芸術祭」(香川、2019、2016)「六甲ミーツ・アート芸術散歩」(兵庫、2017)などがある。



巨大な地下坑道への入口、万田坑。かつてどれくらいのひとがそこを日々行き来したのだろう。

巨大な入口は巨大な空洞となり、存在はその不在によって、いまもわたしたちを引き寄せる。

坑内に続く道、坑口の先にある生活。

空洞に立ち、思いを巡らす。

友定睦の不在へのアプローチはどこか穏やかなものだ。

いまここにある現在と、現在に内在する過去と、かつてそこにあった過去とを、まぜるのではなく、

そっと束ねて差し出すような正直さがある。

だから私たちはそれを分解したり、重ねたりして、戯れることができる。

現在と過去、こことここでないどこか、用いられる素材のひとつひとつが、

その場にあることによって、立体的に立ち現れる作品。

その身体的な体験には、埋められない距離も親しい感覚も正直に束ねられているように思う。

三浦 梨絵 (ときわミュージアム・学芸員)

### 同時企画

本展と同時期に、AIR motomoto (荒尾市) で本年度の招聘作家の個展が開催されます。詳細についてはホームページをご覧ください。

荒尾市文化振興基金

### 井上修志成果展

2023.2.4 (土) ~ 4.2 (日)

AIR motomoto

2022年度 AIR motomoto のアーティスト・イン・レジデンス事業に参加した井上修志は、11月初旬からの約3か月荒尾に滞在し作品を制作してきました。本展は彼の九州初展示であり、初個展となります。ぜひ、友定睦個展と合わせてご来場下さい。



アクセス

○荒尾駅から【産交バスをご利用の場合】

万田中・倉掛方面行きバスに乗車。万田坑前バス停下車後、徒歩で。

(荒尾駅から万田坑への産交バス時刻表は下記リンクよりご確認ください)

○大牟田駅から【西鉄バスをご利用の場合】

笹林・一部橋経由倉掛行きバスに乗車。神田または倉掛バス停下車後、徒歩で。※平成28年4月2日より、土日祝日に限り、万田坑まで乗車できます。

会期

新型コロナウイルスの感染拡大の状況や今後の社会情勢等により、やむを得ず展示内容の変更や開催時期の変更をさせていただきます。詳細と最新情報については荒尾市万田坑のホームページまたはSNS、お電話でご確認ください。